

評価表

			学校規模 (学級数)	保有教室数	校舎の老朽度	耐震性	冷暖房設備の状況	運動場の広さ	体育館の広さ	通学距離	小学校区との関係 (左が現状、右が統合後)	
東中学校の状況			引き続き適正規模は確保される	余裕あり	昭和39年	約7.0億円の工事経費が必要となる	約3.5億円の工事経費が必要となる	16,452㎡	872㎡		新狭山小の一部 富士見小 御狩場小の一部	
東中学校廃止の場合	㊦案	中央中学校	小規模状態が解消される	余裕あり	昭和60年	新耐震基準(工事必要なし)	冷暖房工事完了済	17,347㎡	1,672㎡	概ね変わりはない	奥富小 入間川東小の一部	奥富小 入間川東小の一部 新狭山小の一部
		狭山台中学校	小規模状態が解消される	余裕あり	昭和50年	耐震工事完了済	冷暖房工事完了済	16,934㎡	1,157㎡	短くなる地域も出てくる	狭山台小	狭山台小 富士見小
		山王中学校	入曽地区の統廃合により小規模状態の解消が見込まれている	余裕あり	昭和52年	耐震工事完了済	約3.6億円の工事経費が必要となる	17,516㎡	1,162㎡	概ね変わりはない	御狩場小の一部 山王小	御狩場小の一部 山王小
		評価	◎	◎	○	◎	○	○	○	○	—	
	㊧案	中央中学校	小規模状態が解消される	若干余裕がなくなる	昭和60年	新耐震基準(工事必要なし)	冷暖房工事完了済	17,347㎡	1,672㎡	概ね変わりはない	奥富小 入間川東小の一部	入間川東小の一部 新狭山小の一部 富士見小 御狩場小の一部
		柏原中学校	小規模状態が解消される	余裕あり	昭和57年	新耐震基準(工事必要なし)	冷暖房工事完了済	13,772㎡	1,173㎡	短くなる地域も出てくる	柏原小	柏原小 奥富小
		入間川中学校	小規模状態が解消される	余裕あり	昭和55年	耐震工事完了済	約1.9億円の工事経費が必要となる	17,816㎡	1,166㎡	概ね長くなる	入間川小東小の一部 入間川小	入間川小東小の一部 入間川小
		評価	◎	○	○	◎	○	○	○	△	—	

			学校規模 (学級数)	保有教室数	校舎の老朽度	耐震性	冷暖房設備の状況	運動場の広さ	体育館の広さ	通学距離	小学校区との関係 (左が現状、右が統合後)	
中央中学校の状況			小規模状態にある	余裕あり	昭和60年	新耐震基準(工事必要なし)	補助金の返還が生じる(解体等の場合)	17,347㎡	1,672㎡		奥富小 入間川東小の一部	
中央中学校廃止の場合	㊦案	東中学校	引き続き適正規模は確保される	余裕あり	昭和39年	約7.0億円の工事経費が必要となる	約3.5億円の工事経費が必要となる	16,452㎡	872㎡	概ね変わりはない (飛び地が一部生じる)	新狭山小の一部 富士見小 御狩場小の一部	新狭山小の一部 富士見小 御狩場小の一部 奥富小
		入間川中学校	小規模状態が解消される	余裕あり	昭和55年	耐震工事完了済	約1.9億円の工事経費が必要となる	17,816㎡	1,166㎡	概ね長くなる	入間川小東小の一部 入間川小	入間川東小 入間川小
		評価	◎	◎	△	×	×	○	△	△	—	
	㊧案	柏原中学校	小規模状態が解消される	余裕あり	昭和57年	新耐震基準(工事必要なし)	冷暖房工事完了済	13,772㎡	1,173㎡	短くなる地域も出てくる	柏原小	柏原小 奥富小
		入間川中学校	小規模状態が解消される	余裕あり	昭和55年	耐震工事完了済	約1.9億円の工事経費が必要となる	17,816㎡	1,166㎡	概ね長くなる	入間川小東小の一部 入間川小	入間川東小 入間川小
		(東中学校)	引き続き適正規模は確保される	余裕あり	昭和39年	約7.0億円の工事経費が必要となる	約3.5億円の工事経費が必要となる	16,452㎡	872㎡		新狭山小の一部 富士見小 御狩場小の一部	新狭山小の一部 富士見小 御狩場小の一部
		評価	◎	◎	△	×	×	○	△	△	—	

注) 現在、狭山台小学校と狭山台中学校及び柏原小学校と柏原中学校は同じ通学区域になっている。